

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570811349		
法人名	株式会社サイト一商会		
事業所名	グループホーム太田ふくし苑		
所在地	秋田県大仙市太田町横沢字久保関北716番地1号		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺は、官公庁および福祉団地となっており、利便性が良い場所に位置している。さらに近くには公園があり、田園も広がっていて、静かで景観が良く、ゆったりと生活できる環境にある。そして職員は、決められた介護を行うだけでなく、利用者様の生活が快適で家庭的であり、地域と共にゆっくり生活できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住み慣れた場所で安心して生活できる支援を目指しています。長期間入居している利用者にとっては職員が家族ともなっており、より良いサービスの提供を心がけており、職員の年代、経験年数に関わらず、お互いを認め合うことでケアの充実に繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が目につく場所に開設時からの理念を掲示しており、共有した意識の元に、自分でできることをがんばりながら、実践につなげている。	これまでの暮らし方、家族や地域との繋がりが保てるよう、理念を大切にしたい支援が行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの理容室に訪れたり、理容師から来苑していただき、理容していただいている。町内会へ協力しているので町内会の方がプランターの花を施設の前に置いて行って下さり、それを育てている。	コロナで中断していたことが徐々に復活してきており、利用者が町内の行事に積極的に参加することは控えています。野菜の差し入れや消防団の方が立ち寄ってくれる等、以前と同様に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症なんでも相談所として、認知症に限らず、介護に関する相談窓口としての受け入れ体制が整っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々や家族会代表、入居者代表が参加して2ヶ月に1回開催し、事業所の状況報告を行い意見を求めている。コロナ禍により電話や資料等での意見交換を行っており、いただいた意見は運営に反映できるように心掛けている。	書面会議が続いています。行政からは質問等がありますが、多くの地域の方がメンバーになっているものの意見をいただくことがなく、会議が運営に活かされておりません。	書面会議であっても、会議開催の意義に基づき、メンバーが積極的に関わっていただけるよう意見を引き出す工夫をし、会議での話し合いを運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方おられるため、行政担当の生活支援課との連携は特に密になっている。依頼のある各種調査に応じている。また、注意情報については、素早く対応できるように心掛けている。	こまめに連絡をとり、情報交換しながら協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、相談担当窓口の設置や身体拘束廃止委員会を設置する他、全職員はミーティングや申し送り時に話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束の事例はない。また、全職員は虐待防止マニュアルを把握している。管理者は、職員の身体的、精神的状態に配慮しながら、防止に努めている。職員各自も身近で虐待が見過ごされていないか注意を払っている。	疑問点等は日常的に話し合い、不適切な支援にならないよう注意しています。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター、社会福祉協議会と相談しながら利用者個々に、必要に応じて支援している。現在は1名の方が自立支援を受けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するときは、利用者および身元引受人に契約書、重要事項説明書を読み、説明を行い納得・理解を得てから契約している。また、契約内容に変更が生じた場合は、家族会総会を開催し、変更内容を説明し納得の上で変更をしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	サービス内容等に関する外部相談窓口をお知らせしている。苑便りで利用者の近況をお知らせしている。意見、要望等がある時には遠慮なく伝えてくださるようにも伝えている。	運営に関する意見が出されることはないようですが、状況報告、介護計画の見直し時に電話で話し、意見の引き出しに努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	管理者は、就業規則に添い、各自の役割を責任を持って仕事ができるよう、職員からの相談や、意見や提案を受け、それに対しての指示や指導を行い、全職員が安心して働けるよう配慮に努めている。また、外部研修への参加や、内部研修を行ない、職員の技術向上と育成に取り組んでいる。介護職員処遇改善加算の申請を行っており、支給されている。	話しやすい環境がつけられ、職員の意見は管理者を通じて法人に伝えられています。勤務形態の変更希望等、意見、要望を反映させています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。他事業所と交換交流を通じて、サービスの質の向上を図っている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が入居したときは、利用者の身体、性格等を良く観察して、利用者の特質を確認する。また、信頼関係を早く築き、不安を取り除くために、こまめに声掛けを行い、コミュニケーションを図る様努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご家族様より十分な情報を頂き、現状の把握に努め、入所日からサービス計画に添った支援を行っている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の手伝いができる人は少ないが、いただきますの声かけをしたり、みんなに挨拶をしたり多くの気配りをしたりと職員と支え合う関係になっている。職員は利用者からたくさん話しかけてもらえることを嬉しく思っている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例年は施設のイベントや行事に参加を呼びかけ、利用者との楽しい時間を過ごしてもらえるようにしているが近年は面会の制限をさせていただいている。苑と個人宛のお便りで、利用者本人の生活状態をお知らせしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	希望により、ドライブを兼ね自宅の周辺を訪れたりして、利用者となじみのある人や地域等の関係性を大切にしている。部屋に、大切な人からの品や写真等を飾っている。また、手紙やり取りが出来る様、職員が協力している。	家族が墓参りに連れて行ってくれたり、近所の方が訪ねてくれたりしています。訪問理容の方も馴染みになっており、本人にとって大切なことが、周囲の協力を得ながら継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方には職員が大きな声で話しかけたりジェスチャーなどで、孤独にならないよう支援している。また、毎日の体操、行事等で、みんなが交流できる場を作り、利用者同士が良い関係でいられる様努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の退所後も、ご家族の相談を受けている。また、居宅介護支援事業所とも連携をとりながら、関係を大切にしている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との普段の会話からその人の思いや意向を感じ取り、意思表示が難しい利用者には何度も声をかけ、ゆっくり時間をかけて意向を確認し、全職員で情報を共有してケアに反映させている。	日常の様子や会話から利用者の思いを把握するようにしており、申し送り等で情報を共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をもとに、利用者の日常生活の希望、趣味を含めて生きがいに応えられるように、これまでのサービス利用内容の把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	常に本人の日常生活に留意し、本人や家族の意向に合った生活を過ごせるように、申し送り、スタッフ会議、担当者会議を行いチームで取り組んでいる。	介護計画に沿って記録されていないので、モニタリングは介護支援専門員が職員に聞いて行い、担当者会議で話し合っ介護計画を作成しています。家族の意向も確認しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過支援記録、申し送り簿、生活チェックシートなどに気づきや工夫を個別に記録し、職員間で情報を共有しながら、現状に即したケア及び介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は地域、近隣の方々との交流を行っているが、近年は新型コロナウイルス感染予防のため、交流は少なくなっているが、近くを散歩したり、ドライブにて景色を楽しめるようにしている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や協力病院へ受診を行っている。主治医と薬剤師へは24時間電話が通じるようになっている。	協力医が近所にあり、訪問診療が可能なことから入居時に変更した方もおりますが、希望に添って支援しています。歯科受診の必要がある場合も適切に対応しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者への日常の関わりの中で得た情報を、協力医院の看護師に伝えて相談して、適切な医療を受けられるように支援している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、病院関係者との情報交換を密に取るように努めている。退院後は紹介状を書いてもらい、主治医から適切な治療を行ってもらう。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行わない事を契約時に伝えてい。苑での生活が少し困難になってきた場合には、医師と相談し、家族には早い段階から十分な説明を行い、利用者と家族が不安にならないように、適切な医療や対応に努めている。	終末期には対応していないため、ホームでの生活が困難になった場合は医師や関係者と連携を図り、家族が安心できるよう支援しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や対応マニュアル等が整備され、マスク、使い捨てグローブ、ビニールエプロンを常備し、状況に応じて迅速に対応することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づいて、年2回の避難訓練を実施し、地域住民、地区消防団の協力を得て、利用者全員の避難を行っているが、近年は職員と利用者のみで行っている。また、常備灯、自動火災報知設備、スプリンクラーを設置している。	食料や避難備品を準備し、入浴のない日は浴槽に水を入れて緊急時に備えています。また、消防団の協力も得られることになっています。	季節や天候、特に夜間帯に対応できるよう、協力者の役割分担や敷地外の一時避難場所を確認すると共に、2階からの避難方法を検証し、安全に避難できる対策を期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者個々の人格を尊重し、一人ひとりに見合った介助を心掛けている。好きな服装などで、安らいだ気持ちで自分らしく過ごせるよう支援している。特にトイレ誘導はプライバシーに配慮し自尊心を守れるよう支援している。	あからさまな介助をしない等、利用者の気持ちに配慮した対応を心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と連絡を取り、古くなった衣類等は新しいものに取り替えている。また、洗濯は常に行っており清潔が保たれている。利用者の依頼または、職員の判断でいつでも理容等ができるように、理容師と連携が取れている。お化粧品も希望により支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの中に好物や、畑で採れた旬の野菜や果物を盛り込み、季節を感じてもらっている。菊の花びらを取ったり柿の渋抜きをしたりと、小さな手伝いをしてくださる利用者もおられる。それは利用者の自信と楽しみとなっている。	利用者の機能に応じてできることを一緒に行い、食への関心に繋げています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に食事量・水分量を把握し、その人にあった調理方法(ソフト食、刻み食、嫌いな食材、食べ残しの原因となるもの)を考慮し、職員が交代で献立を作成している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けまたは介助により、利用者全員が口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で知ることができた利用者一人一人の排泄パターンやサインを見逃さず、適切なタイミングでさりげなくトイレ誘導を介助している。夜間はポータブルトイレで対応し、排泄の自立を支援している。	その人毎のパターンを把握した支援ができるよう取り組んでいます。チェック表を活用することで、排泄用品の使用減に向けて努力しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、最終便日を確認し、排便の状況に応じて水分や食事の工夫、服薬により排便のしやすいようにし、運動も個々の身体状態に応じて行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、それ以外でも柔軟に対応している。入浴介助中には楽しい会話などもしてコミュニケーションも深まる楽しい時間となっている。	入浴日を決めて支援しています。拒否されることもあります。その時々状況に応じて柔軟に対応しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息などゆっくり出来るように、居心地の良い居室環境作りをしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の受け取り、服薬は全面的に管理し、個々に決められた時間に服薬介助を行っている。飲み忘れのないように必ず確認している。副作用についての理解もしており、医療機関との連携もとれている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のできることを尊重し、利用者の状態に応じた趣味活動を行い、楽しく過ごせるよう支援をしている。月に1回程度の行事を行い、気分転換をはかっている。輪投げとランプを楽しまれる方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は地域の行事や四季のお祭り等へ出かけ、自然の風景や季節を体感してもらえるよう支援している。本年はお花見や、ラベンダー園などの見学や、お盆のお墓参りへの支援などを行っている。	コロナの影響はまだ残っていますが、状況をみながら外出の機会をつくっています。近所を散歩したり、畑に出ることもあり、できる限り外の空気を吸うことができるよう支援しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として施設管理を行い、必要に応じてお金の出し入れをしている。苑外に設置されている自動販売機に自分でお金を入れ、ジュース等購入の援助を行ったり、希望により買い物の支援をしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、冷暖房を完備し適温を保つようにしている。ホール、手すり、テーブルをアルコール消毒し、清潔の保持に努めている。花や季節の飾りつけ等で家庭的な雰囲気作りに努めている。	トイレはホールの一画にあるだけですが、ポータブルトイレを使用している方もおります。居室の位置によって生じる室温差は、建物の造りを利用して解消できるよう工夫しています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にて、各テーブルで気の合う利用者同士がお茶を飲んだり、お話をしたりゆっくり過ごせる居場所になっている。共有のソファも置かれており、自由に休むことができる。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	親しみのある生活用品を使用したり好みのカレンダーや、写真、手紙等を飾ったりして居心地の良い空間になっている。	本人の持ち物やホームの備品を本人の動線に合わせて配置しています。利用者自身で飾りつけを変える等して、自分の家として過ごせる工夫している方もおります。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人わかりやすく、掲示やしるしなどを付けて見やすくしている。歩行する場所には手すりをつけ、夜光灯も設置している。		